

高知・田村遺跡群

報告する。

- 1 所在地 高知県南国市田村字寺の前
- 2 調査期間 一九八三年（昭58）1月～3月
- 3 発掘機関 高知県教育委員会

- 4 調査担当者 廣田佳久

- 5 遺跡の種類 環濠屋敷跡

- 6 遺跡の年代 室町時代～江戸時代

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

田村遺跡群は、高知空港拡張整備事業に伴い調査が行なわれ、弥生時代及び中世を中心とする、遺構・遺物が検出されており、高知平野における中心的遺跡である。中世の遺構は方形の環濠屋敷跡であり、調査区の北には、守護代である細川氏の居館とされる田村城館跡も所在している。田村遺跡群については既に本誌第五号で報告したが、その

報告する。今回報告する木簡は、屋敷跡の井戸から出土した三点中、文字の読める二点と、近世墓出土の位牌一点である。井戸及び近世墓ともに、田村城館跡の南に広がる環濠屋敷跡で検出されており、井戸は屋敷跡の南東端部で、また近世墓は濠の北で一九基が集中して検出されている。

井戸は直径1m、深さ四・三mの円碟による石組であり、底部に直径○・六mの、自然木くりぬきの井筒が設置されている。出土遺物は木簡の他、曲物の底板、手桶の把手、備前甕、青磁などである。近世墓は三基が切り合っており、位牌が出土した墓壙は、長径一・一一m、短径○・六七m、深さ○・七五mの方形であり、左手を胸に置いた仰向けの人骨が検出され、頭部の横には京焼系椀があり、位牌は頭部の北一〇cmの所から出土している。

- 8 木簡の釈文・内容
井戸

(1) 「妙法蓮華經奉勸請法華守護水神」〔社カ〕
慶長十一年十一月
(263)×31×3 019

(2) 「南無妙法蓮華經奉勸請」
□ □ □ □

(158)×58×2 019



(高知)

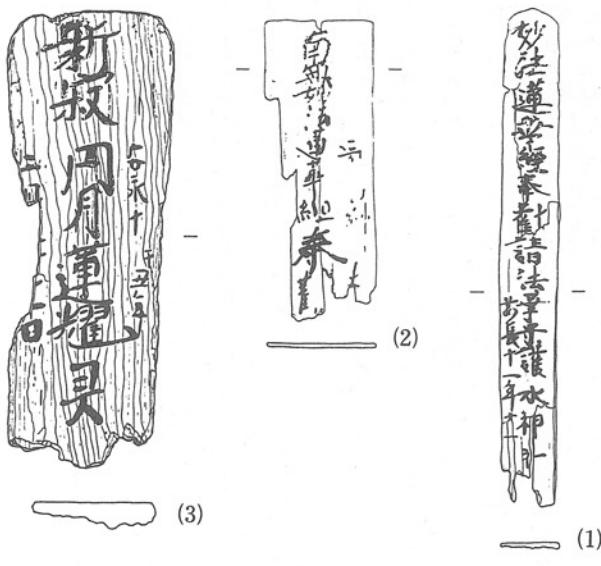
川氏の居館とされる田村城館跡も所在している。田村遺跡群については既に本誌第五号で報告したが、その際未報告であった分を今回

近世墓

(3) 「 安永十辛丑年
新寂円月蓮耀靈
二月□□日」

(243)×86×14 061

(1)(2)の札は水神に対する祈禱札と考えられ、墨書からは日蓮宗寺院の関与があつたことを知ることができる。田村城館跡には、現在



も日蓮宗寺院細勝寺が存在しており、その前身は守護代細川勝益により建立された桂昌寺と考えられ、井戸の所在する環濠屋敷の主は、日蓮宗に關係するものとみられる。

9 関係文献

高知県教育委員会『高知県田村遺跡群』(一九八三年)

(森田尚宏)